



7色の虹を千葉から未来へ

2021年度実施報告書



2022年3月25日

千葉大学環境ISO学生委員会

目次

0. はじめに	2
(1) プロジェクトの概要	
(2) 2021 年度の実施概要	
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	4
2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	6
(1) エコアクション 21 について	
(2) 本企画の概要	
(3) 進捗状況	
(4) 広報	
(5) 来年度の展望	
3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画	9
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール	
(2) こどもエコまつり	
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	
(4) Chiba クリーンアクション	
(5) 映画祭 Chiba	
(6) エコ発信局	
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	
4. 広報活動と成果	31
(1) プレスリリース	
(2) メディア掲載	
(3) メディアによる特集企画	
(4) 外部向けの発表	
(5) 表彰	
(6) 雑誌等への寄稿	
5. まとめと来年の展望	41
(1) 総括	
(2) プロジェクト推進リーダーより	

0.はじめに

(1) プロジェクトの概要

＜発足経緯＞

国立大学法人千葉大学と株式会社京葉銀行は、2012年に包括的連携協力に関する協定を締結し、地域に様々な付加価値の提供と、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んできた。千葉大学は2005年に国際規格のISO14001を取得し、学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきた。「千葉大学環境ISO学生委員会」は発足から今年度で18年目を迎え、千葉大学の環境マネジメントシステムの運用を担うとともに、大学内と地域の環境意識の向上を促進するため、様々な環境活動を行ってきた。

京葉銀行では地元企業として地域のよりよい未来のために、これまで地域貢献や社会福祉活動、文化・スポーツ振興等に取り組んできた。環境面においてもお客様の環境意識の高まりを受け、定期預金の満期案内を環境保全に変える「エコプロジェクト」や「ちば環境再生基金」への寄付活動、環境配慮型商品のご案内等のお客さま参加型の環境活動を実施しており、今後の更なる環境への取り組みを模索している。

また、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)は世界共通語となっている。京葉銀行と千葉大学が協同することで産学連携というパートナーシップのもと、気候変動をはじめとする地球環境問題の解決に向けたSDGsの達成に寄与していくことができると考えている。

このような背景があり、2017年に「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という両者の想いから本プロジェクトが発足した。毎年度、プロジェクトの内容を見直し、企画の発展を検討したり、新しい企画を考案したりするなど、プロジェクトのパワーアップを図ってきた。

＜名称＞

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト ~7色の虹を千葉から未来へ~

＜目的＞

環境活動促進 + 地方創生 + 学生の社会勉強 → 地域活性・環境への貢献

- ① 県民の皆さまや京葉銀行の役職員・取引先企業・千葉大生に対する環境意識の啓発活動
- ② ①の活動による地域社会の活性化と環境負荷削減への貢献
- ③ 京葉銀行の役職員や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強の機会創出

＜名称とロゴに込めた想い＞

千葉大学と京葉銀行が連携して様々な環境活動を行うことで、千葉県から未来の地球に貢献するという想いが込められている。その活動の主体として、ロゴの中心には千葉大学環境ISO学生委員会のキャラクターである「いそちゃん」がデザインされている。デザインは学生委員会の学生が作成した。



(2) 2021 年度の実施概要

① 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

国内外の環境系のシンポジウムや大会等で、千葉大学の学生による先進的な環境への取り組みや SDGs の取り組みを発信していく。これにより、サステナブルキャンパスの推進に貢献するとともに、学生にとってはプレゼンテーション経験や他大学との交流ができる機会となる。京葉銀行は学生派遣の旅費等の資金を提供するほか、企業が持つ知見やノウハウを活かしアドバイスするなど学生を支援する。

<2021 年度>

- 京葉銀行から 230 万円の寄付金をいただいた。
- 今年度は国内会議等で 7 回、国際会議等で 4 回、学生が発表する場があった。オンラインによる実施が 10 回で、現地派遣は大阪大学に 1 回派遣した。
- 省庁が主催する国際会議で、日本の大学生を代表して発表を依頼されることもあった。

② 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

企業が環境に配慮した事業活動を推進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上につながることから、千葉県内の企業のエコアクション 21(以下、EA21)取得を促進する。京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。学生にとってはコンサルティングを通じた環境教育と企業とのかかわりによる社会経験となる。

<2021 年度>

- リツツ資源株式会社へのコンサルティングは第 1 回終了時点で、先方から辞退の申し出があった。
- 株式会社大幹へのコンサルティングは PDCA サイクルのうち、C まで終了した。
- 来年度からは新たに 1 社のコンサルティングを開始する。

③ 学生発案の 7 つの環境貢献企画

地域の方々や京葉銀行の関係者の方々に対して、環境意識の啓発につながるイベント等の活動を行う。京葉銀行は主に個々の企画の開催段取りを行い、学生はコンテンツ作成・当日運営を担当する。学生にとっては普段の活動ではあまり実現できない場で活動することができるとともに、環境教育や実務教育の機会となる。

<2021 年度>

- コロナ禍にも関わらず、7 つの枠組みすべてで企画を実施することができた。
- 今年度は 12 個の SDGs の目標に寄与することができた。



1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

＜概要＞



京葉銀行の寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。また、学生委員会が主催するイベントにご協力いただく。

＜目的＞

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステイナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

＜寄付金額＞

2017 年度 200 万円、2018 年度 230 万円、2019 年度 200 万円、**2021 年度 230 万円**

＜実施報告＞

① 学生派遣に関して

今年度は国内会議等で 7 回、国際会議等で 4 回、合計 11 回学生が発表する場があった。

オンライン実施が 10 回、現地派遣は 1 回で大阪大学に派遣し、旅費に寄付金を使用させていただいた。延べ 60 名の学生がプレゼンテーションや他大学の学生との交流を経験することができた。

今年度の特徴として、本プロジェクトの認知度が上がってきたこともあり、「SDGs 活動について大学生に発表してもらいたい」というニーズがある場合に、学生委員会にお声がかかることが増えた。特に、外務省主催の「対日理解促進交流プログラム」や、環境省主催の「日中韓環境教育ネットワークシンポジウム」において、日本の大学生を代表して発表してほしいと依頼された。この傾向は本プロジェクトの成果ともいえる。

会議・大会名 ★=国際	日程	開催方法	参加学生
全国環境セミナー2021 Web サイト 主催:大学生協	7 月 10 日・11 日	オンライン	4 名
ユニセフのつどい 2021 Web サイト 主催:千葉県ユニセフ協会	7 月 11 日	オンライン	7 名
第 15 回環境マネジメント全国学生大会 Web サイト 主催:千葉大学環境 ISO 学生委員会	9 月 9 日	オンライン	16 名
第 12 回中部大学 ESD・SDGs 研究・活動発表会 Web サイト 主催:中部大学	10 月 13 日	オンライン	2 名

マイナビ学生の窓口プレゼンツ「SDGs 学生カンファレンス」 Web サイト 主催:マイナビ	11月24日	オンライン	1名
★第22回日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)シンポジウム Web サイト 主催:環境省	11月26日	オンライン	2名
サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2021年次大会 Web サイト	12月4日	現地開催(大阪大学)	4名
★「私の大学紹介」プレゼンテーションコンテスト Web サイト 主催:国立六大学、王立プノンペン大学	12月14日	オンライン	5名
★Asian Sustainable Campus Network(ASCN) 2021年次大会	1月22日	オンライン	2名
2021年度持続可能な地域創造ネットワーク全国大会 ユースセッション Web サイト 主催:持続可能な地域創造ネットワーク	2月9日	オンライン	3名
★対日理解促進交流プログラム「JENESYS2020」 2021年度中国青年公益事業交流団オンライン交流 Web サイト 主催:外務省	2月28日	オンライン	14名
合計 11か所 (国内7、国際4)			60名

② 学生の環境活動支援に関して

また、学生を国内外に派遣するだけでなく、学生委員会の環境活動を資金面から支援していただいている。「Chiba Winter Fes 2022 ~千葉からエコを広げよう~」については、現地開催を実現した。京葉銀行には協賛企業としてご協力いただき、寄付金の一部を運営費用に充てさせていただいた。



左)チラシ(表面のみ)

右)報告(表面のみ)



2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング



(1) エコアクション 21 について

エコアクション 21(以下、EA21)は、平成 8 年に環境省が策定したガイドラインである。このガイドラインの運用によって、環境・エネルギーに配慮した組織づくりを進めることができる。主に中小企業を対象にしているため、費用・手続き面で ISO 取得に難がある企業でも取り組め、確実な効果を期待することができる。



【参考】ISO14001 と EA21 の主な違いは以下の通りである。

	ISO14001	EA21
規格の策定	国際標準化機構(ISO)	環境省
規格の目的	環境負荷の削減	環境負荷の削減
登録機関	日本適合性認定協会	エコアクション 21 事務局(中央事務局)
要求事項項目	18 個	12 個+1 個(環境経営レポート)
内部監査	あり	なし(従業員数 100 名以上だとあり)
情報公開	特に規定なし	環境経営レポートの公表
審査・認定費用	100 万円程度	20 万円程度
認知度	国際的に高い	国際的に低い

＜取り組み方＞

ガイドラインに従って 14 の要求事項を満たすことが軸となっている。これによって自動的に PDCA サイクルが回るようになっており、継続的な環境負荷削減が見込める。Check(点検)の段階で、EA21 の運用と結果をまとめた環境経営レポートを作成することが義務付けられている。

＜認証・取得＞

①3か月以上の環境経営システム運用 ②各種データ・書類の管理・提出 ③環境経営レポートの公表の 3 点を満たした上で、派遣された審査人の審査を通過すると、認証・取得となる。

＜EA21 の運営体制＞

中央事務局と各地にある地域事務局が協力して審査人の擁立や認証・取得制度の維持を担っている。

(2) 本企画の概要

＜概要＞

京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。

＜目的＞

千葉県内の企業の EA21 取得を促進することで、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献する。また、コンサルティングを通じて学生委員会が培ってきた環境マネジメント運用のノウハウを生かし、地域に寄与する。

＜内容＞

- ・企業に対して、環境マネジメント運用ノウハウをもとに適切なコンサルティングを行う。(訪問またはオンライン・全 5 回)
- ・認証取得に必要な環境経営レポートの作成支援。環境報告書作成から得た知見を活用できる。

＜実施体制＞

本企画は、EA21 中央事務局と地域事務局・千葉環境財団の協力のもとで実施している。取得企業が EA21 事務局に支払う審査費用の一部をコンサルティング費用として「NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会」※が受け取る。学生委員会が NPO 法人としての事業実績を積むための支援にもなっている。



※学生委員会は千葉大学の組織の 1 つとしてだけでなく、NPO 法人格を取得し、学内で得た知識やノウハウを地域に還元する活動を行っている。理事長以下役員すべて学生が務め、主に環境教育事業、里山保全事業、環境活動推進事業の 3 つを行っているが、常に新しい取り組みを模索している。

(3) 進捗状況

昨年度の 3 月に株式会社大幹様と顔合わせ(右写真)を行い、4 月よりコンサルティングがスタートした。現在、4 回目を実施し、環境経営レポートの作成の準備が順調に進んでいる。

また、昨年度の報告書の中で「来年度の展望」では新規 2 社を担当することになった旨を記載していたが、1 社に関しては先方のご都合により早期に断念したため、今年度の初期からいたメンバー 5 人で残りの 1 社(大幹様)のコンサルティングを進めていた。1 月に委員会が代替わりしたあとは、現 2 年生と 1 年生の全 7 名でコンサルティングを実施している。



日付	実施内容
2021 年	
3 月 18 日	株式会社大幹との初回面談（対面）
4 月 6 日	株式会社大幹との 1 回目のコンサルティング（オンライン）
5 月 26 日	株式会社大幹との 2 回目のコンサルティング（オンライン）
8 月 24 日	株式会社大幹との 3 回目のコンサルティング（オンライン）
2022 年	
3 月 15 日	株式会社トーホープラスとの初回面談
3 月 18 日	株式会社大幹との 4 回目のコンサルティング（オンライン）



オンラインでコンサルティングを行う様子(左:5月、右:8月)

(4) 広報

2021 年 4 月 16 日 千葉大学より PR TIMES にプレスリリースを掲載

千葉大生がコンサルティングに挑戦 企業の「エコアクション 21」取得を支援

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000484.000015177.html>

(5) 来年度の展望

株式会社大幹様のコンサルティングを完了し、認証取得までサポートする。

新たに、株式会社トーホープラスのコンサルティングを行う。

3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画

＜全体概要＞

当委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに企画を立案し、幅広い層に対して環境負荷削減・意識向上を呼びかける。企画の実施にあたっては、主に学生委員会が具体的な計画や当日の運営を行い、京葉銀行には関係先との交渉や運営の補助などをしていただくという役割分担になっている。

＜目的＞

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と SDGs 貢献、地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。



＜企画会議＞

日 時: 2021 年 5 月 31 日(月) 13:00～15:00

場 所: 京葉銀行 千葉みなと本部

参加者: [京葉銀行] 國井智之様 内山竜一様 竹添誠一様 篠塚武仁様 高山裕紹様 守香菜子様

[NIPPONIA SAWARA] 常世田晃様

[ZOZO] 梅澤孝之様 篠田ますみ様 谷嶋布美子様

[千葉大学] 岡山咲子 須山優理乃 熊倉優輝 仁井田咲良 徳弘雄太 井川将大 黒田征斗
鈴木優華 山本怜奈 大石満梨奈 望月理穂 根本大雅 恒川恵豊

内 容: 学生からプロジェクトメンバーを紹介し、既存企画の継続方針と、新企画の提案を行った。

また、京葉銀行からも新企画の提案があった。

結 果: 今年度はオンラインで実施可能な企画はオンラインでの実施とし、対面での企画は最大限の感染症対策を考慮した上で実施となった。既存の 7 つの枠組みを踏襲した上で、新企画もいくつか組み込む形で実施することとなった。今年度は、全ての企画にそれぞれリーダーを設けて、学生はそれぞれ 2 つ以上の企画に関わることとした。

＜広報＞

2021 年 8 月 4 日 千葉大学より PR TIMES にプレスリリースを掲載

SDGs への取り組みを強化「千葉大学 × 京葉銀行 eco プロジェクト」が 5 年目突入

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000508.000015177.html>

2021 年 5 月 31 日 NHK 首都圏ネットワーク

<実施状況>

企画 ◆:対面 ●:オンライン/非対面	関係する SDGs	参加延べ 学生数
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール ●環境ゼミナール ●企業に対する環境・SDGs 教室		15
(2) こどもエコまつり ◆家族でエコにちょうどせん！～クリーン＆カラー～		17
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～ ●リーフレットの配布 ◆農業体験プログラム ◆Chiba Winter Fes 2022 ブース出店		7
(4) Chiba クリーンアクション ◆竹林整備体験		24
(5) 映画祭 Chiba ●考えよう！私たちの SDGs		12
(6) エコ発信局 ◆香取市佐原周辺地域におけるモニターツアー ●SDGs をわかりやすく発信 ●エコメニューの啓発		187
(7) 京葉銀行エコチャレンジ ◆マイストロー販売イベント ◆Chiba's Bazaar～古着でつなげるエコの糸～		18

(1) 千葉大生とともに考える環境ゼミナール



<概要>

県内の企業に向けて SDGs や環境配慮に関する情報を伝えすることで、企業の SDGs や環境への取り組みを促進させることを目的に、京葉銀行が講演会の機会を提供し、学生委員会の学生が講師を務める企画。2020 年度に引き続き今年度もオンラインで開催することができた。

例年アルファバンクの後継者塾の一環で行っている「1-1. 環境ゼミナール」では、グループワークの時間を多く取ったり、SDGs に加えて地域と共にできる環境改善についても紹介したりするなど進化させた。また、今年度の新企画として行った、「1-2. 企業に対する環境・SDGs 教室」では、希望した企業に対して、SDGs の目標達成へ向けた企業の取り組みを、ステークホルダーとして学生がレクチャーした。

1-1. 環境ゼミナール

<実施状況>

京葉銀行主催の『第 4 期 アルファバンクの後継者塾』の一部として、塾生に對し、学生が講演した。(右:案内文書)

日時:2021 年 9 月 10 日 (金) 13:00~14:00

場所:Zoom

関係者:学生 8 名、教員 1 名、行員 1 名、事業承継センター 1 名

受講生:株式会社富井様・創販株式会社様の代表取締役 2 名

内容:

「身近な課題解決に向けた SDGs 推進」

- ① 環境 ISO 学生委員会とその活動、SDGs について
- ② 社内でできる環境対策の例、社内でできることを話し合う
- ③ 地域と企業の関係、環境活動紹介

講演は、主に上記の 3 つを柱として行った。

- ①では千葉大学環境 ISO 学生委員会、PDCA サイクル、構内で行われている活動について 10 分ほどで紹介した。
- ②では社内でできる環境対策の例を 1 分ほどで紹介したのち、ワークショップを行った。ここで、オンライン上で意見出しがしやすくなる Google jamboard(右参照)を使った。企業の話を聞いていただいたり学生の質問に答えていただいたりしたため予定より長い 40 分ほどを使って話し合った。③では時間が押してしまい、3 分ほどで地域と共にできる、もしくは地域のためにできる環境対策を紹介した。

<結果>

時間は押してしまったが充実したワークショップができた。学生としては、企業にもさまざまな事情があることを改めて知り、新たな視点から環境について考えることができた。実際に参加した企業の方からは「企業と学生さんが一緒に話をする機会を増やすことが出来れば、もっといろんなヒントや気づきがお互いに見つ



かるのではないかと思いますし、そのような機会があればぜひ参加できればと思います。」「社内でしている環境に良いこと・悪いことというテーマで土日考るきっかけになりました。10分～15分で『考る』きっかけをもらえたことに感謝します。」という感想をいただけた。



＜広報＞

2021年9月16日 PR TIMES にプレスリリースを掲載

千葉大生が企業経営者に向けて講演とワークショップ 企業の環境対策について議論

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000519.000015177.html>

＜企画の感想＞

学生が全員で内容を考え PPT にまとめたことで千葉大学の取り組みやさまざまな企業の取り組みについて知ることができた。また、企業の方と交流できたことで属す場所によって事情があることから、新たな視点を得ることができた。これらから一人一人が考える重要性に気づけた。この学びをもって各々の事業に生かすことが大切だと思われる。

＜来年度の目標＞

後継者塾での実施は貴重な機会なので、継続していきたい。参加者をもっと増やしていきたい。

ワークショップを大切にして、内容をより良いものとして、新たな話題・視点を提供していきたい。

1-2. 企業に対する環境・SDGs 教室

＜実施状況＞

創販株式会社様に対して、企業に対する環境・SDGs 教室を開催した。

日時: 1回目: 2021年8月6日(金)13:00～14:30

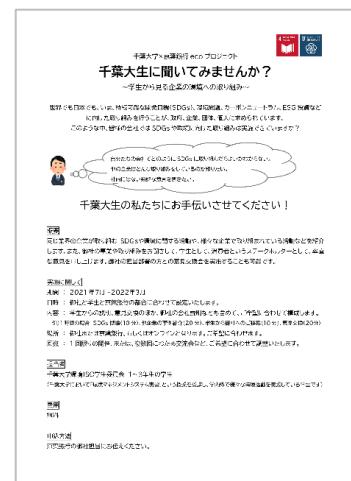
2回目: 2021年9月24日(金)13:00～14:45

場所: Microsoft Teams

関係者: 学生 7名、教員 1名、行員 1名

受講生: 社長含む従業員 6名

内容: 1回目は SDGs の概要、各目標の説明、千葉大学・企業の SDGs の取り組みの紹介を行った。1回目の交流の最後に創販様から、SDGs に関する他社の活動について興味を持った事、これから取り組みた



いと考えた事についての意見を頂いた。それを踏まえ2回目では、同業他社のSDGs取り組み事例を紹介したのち、創販様がこれからSDGs達成に向けて何ができるか、学生から10の提案を行った。



▲10の提案のうち、①～③:社内向け、④～⑦:社外向け、⑧～⑩:情報発信について

＜結果＞

本企画の目的である「①創販様に、SDGsについて知っていただく」「②他企業のSDGsの取り組みを具体的に紹介し、実際に創販様でできるSDGsの取り組みを考え提案する」を達成する事ができた。更に、「創販様への10の提案」を踏まえ、2021年12月には、創販様から新しい採用ページを作成したとのご連絡を頂いた。これに関しても、学生目線でのアドバイス等を行った。

創販株式会社 小川貴弘社長のコメント

「とても楽しく、また、為になる充実した2回の講義でした。第1回では「SDGsとは?」について、非常にわかりやすく説明してくれました。第2回では自社で行っている取り組みをSDGsに沿ってまとめてくれただけでなく、他社の実際の取り組みを具体的に紹介してくれたことで、SDGsに対する実践の重要性など、理解を深められました。講師を担当してくれた学生の皆さん、数年後には社会に出られると思いますが、SDGsに限らず、社会や企業をより良く改革する人材として活躍されることを期待しております。また、機会を作ってくださった京葉銀行様にも感謝します。」

＜広報＞

2021年9月30日 PR TIMESにプレスリリースを掲載

千葉大生が京葉銀行の取引先企業に対してSDGs教室を開催 10の取り組みを提案

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000526.000015177.html>

2021年10月8日 NHK千葉のラジオ放送「花ラジしば」

＜企画の感想＞

準備を通して企業が行うSDGsの取り組みや、SDGsの目標の中にある意外なターゲット、SDGsに取り組むことの重要性など多くのことを学ぶことができた。また、企業の方へ何らかのレクチャーをするという機会は今までなかったため、大学の講義だけでは学べない貴重な経験となった。

また、企業側から「SDGsは自分たちに関係がないと思っていた」という感想があったように、まだ取り組むべき内容として自社の活動にリンクできていない企業が他にもあるのではないかと思うので、継続して本企画に取り組んでいければと思っている。

(2) こどもエコまつり



<概要>

地域の子どもたちを対象に、ゲームや工作体験を通じて環境について考えるイベントを実施することで、環境・SDGs教育を推進する企画である。今年度は、化粧品を専用の液体で絵の具へと変化させるキットを提供している株式会社モーンガータと連携して、不用となった化粧品から作られた絵の具を利用したワークショップとゴミ拾いを併せたイベントを実施した。

<目的>

持続可能な社会の構築が求められている現代において環境教育は非常に重要であることから、本企画では、子ども向けの環境意識啓発イベントを実施することで環境教育を推進する。また、大人に対し、廃棄コスメの削減の啓発を行う。

<実施状況>

①不用な化粧品の回収

2021年11月～12月に、京葉銀行の行員、千葉大学の教職員、学生から使わなくなった化粧品を100個以上回収した。



②イベントの実施

日付: 2021年12月11日(土)

時間: 午前の部(10:00～12:30)、午後の部(14:30～17:00)

場所: 西千葉キャンパス、楓ホール

内容: ごみ拾いと家庭で使い切らずに捨てられてしまう廃棄コスメを使用し、
親子向けのイベントを行った。

関係者: 環境ISO学生委員会、京葉銀行、株式会社モーンガータ様

費用: ecoプロジェクト寄付金より、材料費14,674円

(水筆ペン、軍手、ゴミ袋、画用紙、木製小物入れ、紙やすり等)



<実施の詳細>

- ・親子での参加を募集し、以下の内容を午前と午後に計2回実施した。
- ・参加者と担当の学生で、西千葉キャンパス周辺のごみ拾いを40分程度実施。
- ・楓ホールに移動し、廃棄コスメを絵の具にするキットを使用して1時間程度お絵かき。



ごみ拾いの様子



お絵かきの様子



記念撮影

<結果>

- ・当日の参加者は、午前の部、午後の部合計で、15組38名(うち子ども2歳から小学6年生まで20名)だった。
- ・京葉銀行、モーンガータ様の協力のもと準備を進め、西千葉キャンパス周辺のごみ拾いと廃棄コスメを利用したお絵かきを予定通りに実施した。どちらとも、子どもたちが楽しそうに参加してくれた。

<参加者の感想>

- ・ごみ拾いからのお絵かきで、エコについて話し合うとても良い時間となりました。
- ・子どもの環境に対する意識も高めることができ、親子で楽しめてよかったです。大学・企業・地域がつながることができる素敵なイベントでした。
- ・使わなくなったメイク用品からキラキラの絵の具ができて、楽しくお絵かきできました。
- ・コスメのキラキラが絵の具となり、見ている親も描いている娘も楽しい時間を過ごすことができました。エコを前面に出し過ぎず、楽しいエコな時間って素敵だなと思いました。
- ・ごみ拾いなど近所でもやってみたいです。
- ・楽しかったし、子どもが環境に向き合うことができました。
- ・忘れられないくらい楽しかったです(小学1年生)

<広報>

PR TIMES にプレスリリースを 2 件配信した

2021年11月25日 【親子参加者募集】12月11日家族でエコにちょうどせん！～クリーン＆カラー～

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000545.000015177.html>

2021年12月15日 千葉大生が余ったコスメを集めてお絵かき＆ごみ拾いイベントを実施

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000551.000015177.html>

2021年12月11日 NHK首都圏ネットワーク

2021年12月21日 [日経新聞](#)

<企画の感想>

イベントを起案したのは、使用することができるにも関わらず、捨てられてしまう化粧品がたくさんあるという事実に驚いたからである。その事実を広めたいという気持ちと、化粧品を有効活用したいという気持ちが、

この企画の立案につながった。

企画時の苦労としては、化粧品を回収するにしても回収したものをどうやってリサイクルすれば良いか、などの活用法が考案できなかったことである。そんな中、モーンガータ様からお声がけいただき、化粧品を絵の具に変えるという方法でアップサイクルできるとわかったことで、イベント実現が前進していった。新型コロナウィルス蔓延下であったため、企画しても集客が上手くいかない不安や開催自体が危ういという懸念もあったが、参加者同士の接触を防ぐことなど様々な工夫を考えつつ、魅力的なイベントになるよう会議を繰り返した。

何ヶ月も話し合ってできたこの企画は、実際に参加してくださった方の楽しそうな顔やアップサイクルの魅力、そして廃棄コスメの量の多さを知ってもらうことなどを通して、とても達成感があった。授業やテレビなどの口頭で環境問題の説明を聞くことももちろん大切なことだが、ごみ拾いを行うことでその重要性を考えたり、化粧品の廃棄される量を感じたりすることはより大切なことだと思った。今後も楽しみながら環境問題について学び考える企画を実施していきたい。



(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～



＜概要＞

千産千消フェアでは、以下の3つに貢献するために、「千産千消＝地元千葉の産物を千葉で消費する」ことを推進する企画を実施している。

①食育の促進

現代では昔のように、「生産者の顔が見える、消費者の顔が見える」という互いの関係性が見られなくなってきたことによって、今自分たちが食べているものは誰がどのように作り加工してきたのか、という過程について、思いをはせることが少なくなってきた。食について考える機会を若い世代や地域の方に提供し、農業などへの関心を高める。

②地球温暖化抑制への貢献

地元のものを地元で消費することで、輸送によるCO₂の排出削減につなげる。

③地元の農家や加工業者の応援

3-1. リーフレットの配布

＜目的＞

千葉県の産物の魅力をリーフレットの読者に認知してもらい、地産地消を促すこと。また、リーフレットの配布等を通じて地産地消を行う生産者等を応援すること。

＜実施状況＞

2020年11月～12月 インタビュー実施

～ リーフレット作成、校正、確認作業

2021年8月 発注(合計3000部 光沢紙・薄手・両面カラー印刷・B5仕上がり巻き三つ折り)

費用: ecoプロジェクト寄付金より 99,000円

2021年9月～ 京葉銀行の全店舗窓口で市民向けに配布(2,550部)

京葉銀行の新入社員向けに配布(64部)

エコプロ2021にて配布(81部)



【掲載した事業者(敬称略)】

・株式会社菜の花エッグ

・ピーナッツサブレー本舗 株式会社富井

・株式会社オオノ農園

・株式会社さつまいもの石田農園

・株式会社千葉産直サービス

〈広報〉

2021年8月27日 PR TIMESにプレスリリースを掲載

千葉大生が作成した「千産千消」リーフレットが完成！京葉銀行全店舗で配布開始

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000502.000015177.html>

2021年9月26日 東京新聞

〈反響〉

2021年10月末ごろ、東京新聞の記事を見たことがきっかけで、「地域資料として保管するためリーフレットが欲しい」との連絡があり、千葉県立図書館や千葉市中央図書館、それ以外の分館すべてで地域資料として置いてくれることになった。

＜企画の感想＞

どの事業者様も真摯にインタビューを受けてくださり、また今まで考えたことのなかった視点で食品を作っていて、非常に勉強になった。リーフレット作成に関しては皆初心者で、デザイン案をはじめ、取材で教えて頂いたことをどのようにまとめれば伝えられるか苦戦した。

3-2. 農業体験プログラム

＜背景・目的＞

農業は私たちの日頃の食生活を支えている職業であるにも関わらず、学生が農家と直に交流する機会は少ない。我が国においては、農業に携わる若年人口不足の問題も存在している。そのため、農家が行っている作業を実際に体験する機会を整え、参加した学生が農業に対する気付きを得たり関心を高めたりするという意図から当企画を立案した。

＜実施状況＞

株式会社 NIPPONIA SAWARA のご協力のもと、京葉銀行が取引先の農家・農園・加工業者などから受入先企業を募り、学生委員会が学生の中から体験希望者を募り、受入先に派遣した。

受入先:株式会社芝山農園

体験人数:環境 ISO 学生委員会の学生 2 名

体験期間:9月13日(月)~9月18日(土)に1名、9月13日(月)~9月25日(土)に1名

業務時間:7:30~17:30(休憩あり) ※期間中は農園の寮に宿泊して勤務

時給:950 円

主な作業:芋掘り機に乗りさつまいもを掘る作業、鍬(くわ)を用いてつるを切る作業、さつまいもの選別(重さごとの仕分け)作業、箱詰め作業、芋けんぴの袋詰め作業



＜体験した学生の感想＞

石塚優洋(法政経学部 2年)

大学での授業を通して SDGs について関心を持ち、農業体験プログラムに参加した。さつまいも掘りや鍬での作業など慣れないことが多く、戸惑うこともあったが、わからないことは農園の方に親切に教えていただき親睦を深めることができた。普段の大学生活の中で、農業に携わる機会はなかなか無いので非常に新鮮で貴重な体験となたし、今回は新型コロナウイルスの影響で外で活動する機会がほとんどなく、自然が豊かな地で作業をするのはとても気持ちがよかったです。また、実際に SDGs に貢献する農業の取り組みを見聞きし、学生の立場からだけでなく、生産者の視点からも SDGs について考えることができた。

阿部美南(法政経学部 1年)

農業について漠然としたイメージしかなかったが、今回の体験を経て、本当に苦労が多い仕事だと身をもって感じた。肉体的な苦労はもちろん、天気などその日の状況によって仕事を見極めるという難しさがあり、他の仕事と大きく違うと感じた。また、農園の皆さんのが、作業スピードや効率性を重視してお仕事をされていたことが非常に印象的だった。

＜結果＞

芝山農園は本企画に大変協力的で、ありがたいことに今後も継続的に実施していくことを希望していただけた。さらに京葉銀行の取引先である、NHK 放映を見た食品加工業 1 社から、職業体験のプログラムを実施することを新たに希望された。

＜広報＞

2021年11月4日 PR TIMES にプレスリリースを掲載

京葉銀行の取引先の農園で千葉大生が農業体験をするプログラムを実施

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000527.000015177.html>

2021年10月7日 NHK 総合テレビ「おはよう日本」

2021年11月5日 NHK 千葉のラジオ放送「花ラジちば」

2022年2月13日 Chiba Winter Fes 内でのパネル展示

＜企画の感想・来年度の目標＞

芝山農園や他の企業から、ぜひ今後も同様の企画を実施したいというご提案を頂き、一回きりで終わらず引き続き学生たちが現場の実情を、身をもって体感する機会を得られるように継続していきたい。企業様の協力を得ながら、学生にとって学びの多い体験プログラムを実施していき、より多くの学生が参加できるようできればと思う。

3-3. Chiba Winter Fes 2022 ブース出店

＜背景＞

2017年度から学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes」で、千葉の特産品を扱う農家等に出店していただき、千産千消や地域活性化に貢献してきた。2019年度・2020年度はコロナの影響で同Fesが開催できなかったが、今年度は再開することができた。

＜実施状況＞

来場者に地元の農産物や製品について知ってもらうきっかけとすることを目的として、今回は NIPPONIA SAWARA、野菜がつくる未来のカタチの2社に出店して頂き、千産千消フェア担当学生2人が出店の手伝いをした。

名称: Chiba Winter Fes 2022 内 「道の駅コーナー」

日時: 2022年2月13日(日)10:00~16:00

場所: 千葉大学西千葉キャンパス けやき会館前

【出店者および販売物】

・株式会社 NIPPONIA SAWARA: Qなっつ(オオノ農園)、塩味・青のり味の芋けんぴ(芝山農園)

・一般社団法人 野菜がつくる未来のカタチ: 各種野菜・果物、焼き菓子など

※Qなっつや芋けんぴを購入された方に対し、NIPPONIA SAWARAについて口頭ならびにチラシの配布により、宣伝した。ポスターもテントの外に掲げた。

＜結果＞

コロナ禍に加え、昼前から雨が降るという状況で、来客数はあまり伸びなかった。

雨天時の対応がスムーズにできなかつたために、出店者には大変なご苦労をかけてしまった。

＜企画の感想＞

30代以上の方に対しては販売を通じて地産地消を啓発することができたので、子ども世代への啓発方法も考えていきたい。幼少の思い出は、それ以降の人生における選好・価値観に影響を与える割合が大きいと考える。そのため、そういう子もたちに地元産のものに興味を持ってもらい、親に対し、「これ食べたいから買おうよ」と言ってもらえるようになればと思う。



(4) Chiba クリーンアクション

＜概要＞

放置竹林における竹害の現状や、竹材の活用・ビジネス化について学び、実際に竹林現場の整備を体験する企画。全3回で構成し、第1回はセミナー形式で千葉県の竹害の現状や、竹材の活用などについての理解を深め、第2回、第3回では実際に竹林現場に足を運び、竹林整備活動や竹炭・竹粉製作などを体験した。



＜目的＞

近年問題になっている竹害についての理解を深め、学生ならではの視点で解決策を考えるとともに、学生委員会が情報を発信することで、学生という若い世代の環境意識の向上を図る。

＜実施状況＞

①座学（竹害やビジネス化について学ぶ）

日時：2021年10月9日(土)15:00-17:00

場所：京葉銀行千葉みなと本部2階 αガーデンホール

参加者：千葉大学環境ISO学生委員会の学生 22人

内容：『竹を知る』ワークショップ（竹害と竹材や竹炭の利活用について学ぶ）



「放置される竹林を活かし循環型社会を目指す」（特定非営利活動法人竹もりの里 鹿嶋 與一理事長）

「プラスチックから竹へ～サステナブルな選択～」（特定非営利活動法人環境パートナーシップちば 小倉久子理事）

②現地（竹林整備体験：荒廃した竹林を整備する）

日時：1回目 2021年10月30日 9:30-15:00

2回目 2021年12月4日 9:30-15:00

場所：長柄町の町有竹林（長柄町刑部金谷クリーンセンター近隣）

参加者：千葉大学環境ISO学生委員会の学生

1回目 23人

2回目 22人

内容：竹林の整備（竹の伐採、枯れ木・ごみの回収など）、竹炭・竹粉づくりなどの体験

共催：特定非営利活動法人竹もりの里、一般社団法人もりびと

後援：長柄町、特定非営利活動法人環境パートナーシップちば

③現地（竹林整備体験：竹の魅力を知り、竹材の有効活用を学ぶ）

日時：2022年4月9日（予定） 9:30～15:30

場所：長柄町の町有竹林（長柄町刑部金谷クリーンセンター近隣）

内容：竹林整備、タケノコの採取、竹細工製作体験、バイオプラスチック原料加工ライン（一部）見学

＜役割分担＞

京葉銀行:関係者間の調整、バス手配、傷害保険手配、情報発信

竹もりの里:作業準備・用具手配、作業指導、荷物の運搬、昼食手配・準備、竹細工材料・用具準備・指導

千葉大学:参加者情報とりまとめ、情報共有、情報発信、レポート作成

＜費用負担＞

京葉銀行:昼食材料、傷害保険

千葉大学:借上げバス料金(eco プロジェクト寄付金)1回 86,900 円×2回(10月、12月)=173,800 円

＜結果＞

参加者の環境意識の向上を果たせた。参加者は本企画の感想や参加して思いついたアイデアなどをまとめたレポートを京葉銀行へ提出した。参加者の中には企画への参加を SNS で発信し、参加者のみならず周囲の学生などの環境意識の向上に寄与した者もいた。本企画はNHKテレビ番組「ひるまえほっと」やラジオ番組「花ラジちば」の取材も受け、さらに多くの人の環境意識の啓発を行うことができた。



▲参加者の集合写真



▲竹の伐採の様子



▲集めた竹で作った竹炭

＜企画の感想＞

新型コロナウィルスの影響がある中で、比較的大規模な対面での活動が行えたことはよい結果だと思う。竹林整備を実際にすることで、事前の講義で学んだ内容の理解が深められた。SNS を活用し参加者のみにとどまらない環境意識の啓発が行えたのも良い点だと思う。今後もこの企画を継続できたらうれしく思う。

＜広報＞

2021年12月28日 PR TIMES にプレスリリースを掲載

京葉銀行の協力で千葉大生 24 人が竹林整備体験

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000554.000015177.html>

2021年10月30日 千葉テレビ「News ちば」

2021年11月15日 NHK 総合テレビ「ひるまえほっと」

2021年11月17日 NHK 総合テレビ「おはよう日本」

2021年12月3日 NHK 千葉のラジオ放送「花ラジちば」

2022年2月26日 日経新聞 千葉版

2022年3月掲載予定 千葉県環境研究センターYouTube チャンネル「環境情報センター」

(5)映画祭 Chiba



＜概要＞

子どもたちに SDGs を知るきっかけを提供したり、知識をつけてもらったりするための企画である。2019 年度に「映画祭 Chiba」と題し、地域の中学校で、環境問題に関する映画を鑑賞した後、その内容を踏まえてディスカッションし、それぞれの意見を共有する企画を行った。2020 年度はコロナで直前に中止となり、今年度も継続実施する予定であったが、実施することが難しい状況となった。

そこで、「考えよう！私たちの SDGs」と題したオンライン企画に切り替え、SDGs について学ぶことができる動画やそれに関連した復習テスト(クイズ)を学生が作成した。小中学生に SDGs について知ってもらい、SDGs の目標達成に向けた取り組みについて 1 人 1 人に考えてもらう企画である。作成した動画は [YouTube アカウント「エコ発信局」](#) で公開し、在宅時間が増えた昨今の状況で、家庭でも学ぶことができる教材として自由に活用できるようにした。

＜目的＞

次世代を担う小中学生に SDGs についての理解を深めてもらい、自分たちにできる取り組みを考えもらう。これにより千葉市全体の SDGs への取り組み意欲を高める。

＜実施状況＞

動画を作成し、YouTube アカウント「エコ発信局」で公開した。広報については、千葉市教育委員会に協力していただいた。成果については未定である。また、当企画の目的達成のための別の手段として、生涯学習振興課が市内の小・中・高校生を対象に実施している「科学者育成プログラム」にて、SDGs 関連の講座を実施する方法がある。なお、以下が公開した動画の内容である。



・【小学校 1～3 年生】かんがえよう！私たちの SDGs

動画の長さ: 約 19 分

取り扱う SDGs の目標: 4 番「質の高い教育をみんなに」 14 番「海の豊かさを守ろう」

紹介した事例: 学校に行けない子どもの人数、海底で見つかったごみ

紹介した取り組み例: 京葉銀行の取り組み、一生懸命に勉強する、エコバッグを使う、ごみを拾う

・【小学校 4～6 年生】考えよう！私たちの SDGs

動画の長さ: 約 22 分

取り扱う SDGs の目標: 2 番「飢餓をゼロに」 14 番「海の豊かさを守ろう」

紹介した事例: 飢餓で苦しんでいる人数、日本の食品廃棄量、海に流れるプラスチック(ゴミ)の量

紹介した取り組み例: 京葉銀行の取り組み、ごみを減らすための行動、エコバッグを使う、ごみを拾う、リサイクルをする

・【中学生】考えよう！私たちの SDGs

動画の長さ: 約 26 分

取り扱うSDGsの目標:7番「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 14番「海の豊かさを守ろう」

紹介した事例:快適に電気を使えない状況、地球温暖化、魚の減少について、海洋ごみの増加について

紹介した取り組み例：京葉銀行の取り組み、節電、公共交通機関の利用、エコバッグを使う、ごみを捨つ、

リサイクルをする



動画の一部

〈広報〉

千葉市教育委員会に協力していただき、千葉市内の小中学校にメールにて広報した。(左:案内文書)

2022年3月22日 PR TIMESにプレスリリースを掲載

千葉大生が小中学校で使える SDGs 啓発動画を作成

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000574.000015177.html>



＜今後の目標＞

より多くの小中学生に SDGs について知ってもらえるように広報の仕方を検討する。「科学者育成プログラム」に参加できる場合は、これまでに作成した動画を参考に、楽しく SDGs について学んでもらえるような講座を作成する。

＜企画の感想＞

動画を作成する中で自身もSDGsの内容に詳しくなり、また世界の現状についても知ることができた。私がこの企画を考えたきっかけでもある「自分が知ったことを広めたい」という思いがより一層強くなった。企画運営では、自分の未熟さを知り、自分の足りないこと、改善しなくてはならないことが浮き彫りになった。これらを知ることができただけでも、このプロジェクトに参加した意義があった。

(6) エコ発信局



<概要>

本企画は、SDGs の知識の提供や啓発活動などを行う企画である。「6-1. 香取市佐原周辺地域におけるモニターツアー」では、学生が地方創生のための試作ツアーや体験して、その感想を元に滞在型ツアーやプラッシュアップを行う。「6-2. SDGs をわかりやすく発信」「6-3. エコメニューの啓発」では、本プロジェクト特設サイト内の「[いそちゃんの部屋](#)」を通じ、京葉銀行の取引先企業や行員、市民、千葉大生に向けて、SDGs に関する情報や環境負荷削減のための様々な情報を発信する。

6-1. 香取市佐原周辺地域におけるモニターツアー

<目的>

今回のモニターツアーは、株式会社 NIPPONIA SAWARA が、香取市佐原地区とその周辺地域の新たな楽しみ方を発信する滞在型ツアーや開発するにあたり、若年層の意見を取り込むべく、千葉大生を対象としたテストマーケティングとして実施するものである。同社では、滞在型観光の推進を企図し、一般社団法人サイエンスエデュケーションラボ監修のもと、既存コンテンツを活かしながらも理科の要素を取り入れたプログラムを開発するなど、新規コンテンツの開発に取り組んでいる。今回のモニターツアーでは、同社が新規開発した各種コンテンツを千葉大生が体験し、その意見を踏まえてプラッシュアップすることで、次年度以降の滞在型ツアーや開催に繋げる。

<実施状況>

日時: 1回目 2021年12月4日(土)~5日(日)

2回目 2021年12月11日(土)~12日(日)

場所: 香取市佐原地区

参加者: 環境 ISO 学生委員会の学生 12 人

体験コンテンツ:

- ① 小江戸の町並みでの歩測体験、オリジナル地図作成
- ② 竹あかり作成
- ③ 香取神宮での参拝、宝物館見学
- ④ 香取神宮所蔵の国宝「海獣葡萄鏡」にちなんだ銅鏡鑄造・磨き体験
- ⑤ 水郷佐原あやめパークでのサッパ舟船頭体験
- ⑥ 水郷サイクリングコース試走

共催: 京葉銀行、株式会社 NIPPONIA SAWARA、一般社団法人サイエンスエデュケーションラボ



銅鏡鑄造・磨き体験

<広報>

京葉銀行よりプレスリリース <https://www.keiyobank.co.jp/news/2021/sawaramonitor202112.pdf>

2021年12月22日 日経新聞

ぐるっと千葉 2月号

6-2. SDGs をわかりやすく発信

〈目的〉

環境負荷削減のアイデアなどを学生目線でわかりやすく発信することで、環境意識の啓発・行動の実践を促す。

＜実施状況＞

環境 ISO 学生委員会の 1 年生が受講する授業「環境マネジメントシステム実習 IA」の中で、170 名の学生がワークショップを通じて、「いそちゃんの部屋」に掲載する記事の作成を行った。

完成した 42 の記事の中から、参加学生の投票や教員によって選ばれた 17 の記事を、10 月 5 日から 11 月 30 日にかけて、毎週火曜日と木曜日に順次掲載した。

エコ発信局で紹介する記事の掲載日と記事タイトル

目標	掲載日	記事タイトル
2 食べ物	10月5日(火)	飢餓をなくそう！
3 健康	10月7日(木)	あなたは健康ですか？
4 教育	10月12日(火)	未来へつながる教育を子供たちに
5 性別平等	10月14日(木)	ジェンダー平等～考え方のアップデート～
6 安全な水とトイレを世界中に	10月19日(火)	安全な水とトイレを世界中に
7 地球を守る新常識	10月21日(木)	いそちゃんと学ぶ 地球を守る新常識
8 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	10月26日(火)	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
9 知ろう！ 変えよう！ 私たちのエネルギー！	10月28日(木)	知ろう！ 変えよう！ 私たちのエネルギー！
10 言えない苦しみ～家庭に潜む不平等～	11月2日(火)	言えない苦しみ～家庭に潜む不平等～
12 エコクリエイションでSDGsに貢献！	11月4日(木)	エコクリエイションでSDGsに貢献！
13 やってみよう！ 私たちにもできること	11月9日(火)	やってみよう！ 私たちにもできること
14 身近なところから！ 減らそう食品ロス！	11月11日(木)	身近なところから！ 減らそう食品ロス！
15 コロナを機に、世界を変えよう！	11月16日(火)	コロナを機に、世界を変えよう！
16 海を守るにはまずはゴミから！	11月18日(木)	海を守るにはまずはゴミから！
17 あなたはプラスチック入りの水をゴクゴク飲んでいるかもしれません！	11月23日(火)	あなたはプラスチック入りの水をゴクゴク飲んでいるかもしれません！
18 生態系を守るために	11月25日(木)	生態系を守るために
19 我ら地球防衛隊～私たちの手で世界を繋げよう～	11月30日(火)	我ら地球防衛隊～私たちの手で世界を繋げよう～

安全な水とトイレを世界中に

あなたはプラスチック入りの水をゴクゴク飲んでるかも知れません！

私たちの生活と海の関係

資源を守るために私たちができること

SDGs目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

エコ見解屋-環境問題をテーマにした連載コラム

エコチャレンジでSDGsに貢献！

今日本の食料課題

簡単エココッキング

にんじんの夜干し

〈広報〉

2021年10月5日PR TIMESにプレスリリースを掲載

千葉大1年生 170 人の SDGs 啓発の取り組み 17 の記事を京葉銀行 Web

サイトに掲載 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000520.000015177.html>

6-3. エコメニューの啓発

＜目的＞

SDGsや環境負荷削減のアイデアなどを学生目線で分かりやすく解説・発信することで、持続可能な社会や環境に対する意識の啓発・行動の実践を促す。

＜実施状況＞

更新日:2022年2月11日(金)、18日(金)、25日(金)

内容:学生がテーマを設定し、実際に調理したエコな料理を感想やポイントと共に掲載した。

千葉県の取り組みであるしばエコ農産物についても紹介した。

第1弾 「エコスイーツ」 炊飯器 de 紅茶ケーキ ／ にんじんの皮ゼリー

第2弾 「千葉の名産を使ったエコレシピ」 ピーマンのピーナッツ炒め ／ ホワイトチャーハン

第3弾 「親子で作れるエコメニュー」 エコ餃子 ／ おえかきホットケーキ

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト

今日のおやつにエコスイーツはいかがですか？

皆さんは普段、エコを心がけて料理をしていますか？この記事では、千葉大学環境 ISO 学生委員会の学生が実際に調理・実食した『地球上にやさしいスイーツ』をご紹介します。甘いものやお菓子作りが好きな方、地域にやさしい生活の第一歩としてエコスイーツを作ってみましょう！

炊飯器 de 紅茶ケーキ

紅茶の出がらしを使うのでエコです！**ガソリンを使わない**ので洗い物が減らせて環境に良いです。作るのも簡単です！(*^*)v

材料

- ・紅茶の出がらし 適量 (3 パック程度)
- ・ホットケーキミックス 200g
- ・卵 2 個
- ・牛乳 150cc
- ・サラダ油 大さじ 2
- ・バター 20g

作り方

- ①オーブンで溶かしておき
- ②炒飯器の蓋に紅茶の出がらしを入れて置せる
- ③紅茶の出がらしを入れてささげげる
- ④炒飯器に蓋をせつめてそのまま炒飯ボタンを押す
- ⑤一握りたまごを一度お絞りボタンを押す
- ⑥炒めたまごをよじなどをして生地にこして、何もついてこなければ完成！

お好みで生クリームを添えても美味しいになります♪

炊飯器を手持て回転、紅茶の香りと温かい湯気が広がり幸せな気持ちになりました！

冷めても美味しいいただける簡単ケーキです

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト

はじめに

今日は、京葉銀行千葉支店がある「千葉県」の名産やお土産の多い材料を使ったエコレシピを、ネット上で公開されているものの中から千葉大学環境 ISO 学生委員会の学生が選んで紹介します。

千葉の名産を使ったエコレシピ

①ピーマンのピーナッツ炒め

手順

1. ピーナッツを熱らずに細切りにし、ちくわは斜めの細切りにする
2. ピーマンにごま油をひいて火で炒め
3. ピーナッツを加えてささぐらわせにピーナッツを入れ加熱
4. にんじんを加えて少し炒める
5. お皿に盛りつけて完成！

参考レシピ: [ピーナッツ炒め 無油のないピーマン上手なピーナッツ炒め](#)

親子でつくれるエコメニュー

これから始まる春休みに親子で仲良く、環境にも優しい料理を作りませんか？

～エコ餃子～

材料(4人分)

- ・餃子の皮 25枚
- ・豚ひき肉 200g
- ・にんじんの皮 1/4 本分
- ・ブロッコリーの芯 適量
- ・大根の葉 適量
- ・サラダ油 適量
- ・生葉の葉 チューリップ 小さじ2
- ・にんにくチューリップ 小さじ1
- ・食鹽 大さじ1
- ・ごま油 小さじ2

作り方

- 1 にんじんの皮・大根の葉・ブロッコリーの芯をみじん切りにし、電子レンジ 600W で 1 分温め
- 2 1 を盛りたらひき肉を入れて混ぜ合わせる
- 3 2 に水を入れて混ぜ合わせる
- 4 餃子の皮で包む
- 5 ブラシにサラダ油をひいて、餃子を並べる
- 6 餃子を焼く色がついたらお湯を注ぎ、蓋をして強火で蒸し焼きにする
- 7 水気がなくなったらお皿に盛りつけて完成！

CHECK POINT

貴方はそのまま焼いてしまう野菜の皮を使うのです。エコです！電子で温めしく餃子を包むことができるので、野菜にぜひリサイクルしてほしいです！他の野菜を焼くこともあります！貴方がしているものを使っていると思えないほど、ジューシーなおいしかったです！

＜企画の感想＞

当初予定していた内容は実現することができたが、より班員の意見を反映した記事にすることができるればさらに良い記事を作ることができたのではないかと思う。

＜来年度の目標＞

引き続き、身近な環境問題について学生ならではの視点で発信していきたい。より多くの人の目に留まるような取り組みにしていきたい。

(7) 京葉銀行エコチャレンジ



<概要>

学生がエコアイデアを提案し、それをもとに京葉銀行各支店において環境負荷削減に取り組んだのち、取り組み状況や成果などを評価する企画である。今年度は、「7-1. マイストロー販売イベント」を実施し、「7-2. Chiba's Bazaar ~古着でつなげるエコの糸~」の開催に向けた活動を行った。

7-1. マイストロー販売イベント

<目的>

学生が考えたデザインを取り入れたエコグッズ（マイストロー）をつくり、行員に利用してもらうことを通じて、プラスチック削減と行員の環境意識向上を目指す。

<実施状況>

学生が「SDGs Action」とデザインしたマイストローを、京葉銀行本部内で行員向けに販売するイベントを実施したほか、千葉大生向けに西千葉キャンパス内の大学生協で販売した。

販売場所・個数：行員対象 2021年7月9日(金)11:00～ 京葉銀行千葉みなと本部 9F 100個

学生・教職員対象 2021年7月9日(金)8:30～ 千葉大学生協ライフセンター 90個

商品仕様：ポータブルステンレスストロー

ケース：約Φ16×H106mm、ストロー：全長210mm、洗浄ブラシ付

価格：行員向け 500円(税込)、千葉大学内販売用 250円(税込)



京葉銀行内の販売イベントの様子

大学生協での販売の様子

販売したマイストロー

<広報>

2021年7月5日 PR TIMES にプレスリリースを掲載

千葉大生が環境・SDGs 啓発を目的にマイストローをデザイン

<https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000501.000015177.html>

2021年8月2日 ニッキン

2021年8月3日 千葉日報

＜企画の感想＞

多くの方々に対する企画として、マイストローの制作を京葉銀行と行った。デザインは SDGs への取り組みを促すキャッチフレーズと学生委員会のマスコット「いそちゃん」を取り入れたものになっている。多くの行員の方や学生たちにマイストローを使ってもらうことで、プラスチックごみの削減と SDGs の意識向上に繋がればと期待している。

7-2. Chiba's Bazaar ~古着でつなげるエコの糸~

＜目的＞

古着を行員から回収し、地域の方々に向けて販売するという一連の活動を通して、リユースに対する行員と市民の意識向上を目的としている。また、収益はコロナ対応を行う医療機関等に寄付することで、地域へ還元する。

＜実施状況＞

内容: 行員と学生から古着を回収し、格安で販売するバザーを行う。売れ残った古着は株式会社 ZOZO が利用している処分業者を通して二次利用につなげる。

場所: 市民が集いやすい ZOZO の広場にて開催予定。

今年度は回収対象・回収場所・販売場所について検討し、ポスターの原案(右)を作成した。当初は 3 月中旬にバザーを行う予定だったが、同月に同じ場所で他団体が同様のイベントを行うことがわかり、開催を来年度に延期した。



＜今後の予定＞

- ①回収: 京葉銀行行員、千葉大学関係者から、それぞれ回収を行う。
- ②保管・仕分け: メンズ・レディース・子供服などに分けて段ボールに入れる
- ③販売: 時期は、来年度春期～夏期の開催を予定している。
- ④売れ残りの処分: 株式会社 ZOZO が利用している処分業者を通して処分を依頼する。
- ⑤寄付予定先: 千葉県、千葉大学医学部附属病院等

＜来年度の目標＞

来年度春期～夏期にバザーの開催を予定しているので、この企画のメンバー全員で団結・協力して、実りあるイベントにしたい。

4. 広報活動と成果

(1) プレスリリース

千葉大学の公式サイトに掲載、および、PR TIMES にて配信 14 件（前年度 5 件）

月日	内容
4月16日	千葉大生がコンサルティングに挑戦 企業の「エコアクション21」取得を支援
7月5日	千葉大生が環境・SDGs啓発を目的にマイストローをデザイン
8月4日	SDGsへの取り組みを強化「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」が5年目突入
8月27日	千葉大生が作成した「千産千消」リーフレットが完成！京葉銀行全店舗で配布開始
9月16日	千葉大生が企業経営者に向けて講演とワークショップ 企業の環境対策について議論
9月30日	千葉大生が京葉銀行の取引先企業に対して SDGs 教室を開催 10 の取り組みを提案
10月5日	千葉大1年生 170 人の SDGs 啓発の取り組み 17 の記事を京葉銀行 Web サイトに掲載
11月4日	京葉銀行の取引先の農園で千葉大生が農業体験をするプログラムを実施
11月25日	【親子参加者募集】12月11日(土)家族でエコにちょうどせん！～クリーン＆カラー～
12月8日	千葉大学環境 ISO 学生委員会が「サステイナブルキャンパス賞 2021」を受賞
12月15日	千葉大生が余ったコスメを集めてお絵かき＆ごみ拾いイベントを実施
12月28日	京葉銀行の協力で千葉大生 24 人が竹林整備体験
1月21日	千葉大生が企画する「Chiba Winter Fes 2022」を 2 月 13 日に開催
3月22日	千葉大生が小中学校で使える SDGs 啓発動画を作成 「考えよう！私たちの SDGs」

京葉銀行の公式サイトに掲載 6 件

月日	内容
4月16日	千葉大生がコンサルティングに挑戦！企業の「エコアクション21」取得を支援
7月5日	千葉大生が環境・SDGs啓発を目的にストローをデザイン
8月27日	千葉大生が作成した「千産千消」リーフレットが完成！当行全店舗で配布
11月1日	「Chiba クリーンアクション 竹林整備体験事業」の実施について
12月2日	廃棄コスメを活用したお絵かき＆ごみ拾いイベント 12月11日(土)千葉大学で開催
12月14日	香取市佐原周辺地域におけるモニターツアーを開催しました！

(2) メディア掲載

新聞に13回、テレビに7回、ラジオに4回取り上げてもらうことができた。

前年度に比べて露出が増えた(前年度は新聞3紙)。

月日	メディア	見出し(内容)
5月31日	NHK 首都圏ネットワーク	SDGs達成へ 大学生×地元銀行
8月2日	ニッキン	京葉銀行でマイストロー販売会
8月3日	千葉日報	マイストローでSDGs推進 千葉大×京葉銀 学生考案で販売会
9月26日	東京新聞	「千産千消」進める思い 千葉大生と京葉銀行がリーフレット
10月1日	日経新聞	子どももSDGs知って 首都圏の学校・企業が教育活動
10月2日	日経新聞	県内地銀3行が内定式「地域経済回復下支え」今年もウェブ趣向こらす
10月7日	NHK 「おはよう日本」	大学生と人手不足の企業マッチング 千葉県内の銀行
10月8日	NHK千葉ラジオ 「花ラジちば」	大学生が企業にSDGs教室
10月30日	千葉テレビ 「newsちば」	竹林整備を体験 「竹害」を学ぶ
11月5日	NHK千葉ラジオ 「花ラジちば」	農業体験プログラム
11月15日	NHK 「ひるまえほっと」	竹の新たな活用方法を
11月17日	NHK 「おはよう日本」	竹の新たな活用方法を
12月2日	TOKYO FM 「サステナ*デイズ」	学生委員会の茂路委員長が委員会活動の紹介の一環で、「家族でエコにちょうどん~クリーン&カラー~」を告知した。
12月3日	NHK千葉ラジオ 「花ラジちば」	大学生が竹林整備
12月11日	NHK 「ニュース645」	SDGsめざして 化粧品を絵の具に再利用
12月21日	日経新聞	化粧品でお絵かき 千葉大で子供イベント 不用品使いSDGs推進
12月22日	日経新聞	佐原でモニターツアー 京葉銀など 滞在型の観光推進
1月3日	千葉日報	自由な発想、次々実践 省エネ啓発や3R活動
1月7日	ちいき新聞	今、始めよう!SDGs

1月10日	読売新聞	SDGs学生が発案
2月10日	BSフジ 知りたい！SDGs	千葉大学の学生主体のSDGs活動の紹介の中で、千産千消フェアを紹介。
2月20日	東京新聞	学生自由な発想で企業とコラボ 環境学び行動できる人に
2月26日	日経新聞	県内の放置竹林 活用広がる
3月20日	東京新聞	学生主催イベント 企業も協力

掲載記事・テレビ放送(一部)



2月15日

2月20日

2月25日

3月1日



マイストローでSDGs推進



(3) メディアによる特集企画

本プロジェクトを5年にわたって継続していることや、認知度の向上に伴い、メディアの方から本プロジェクトを紹介する特集企画を提案していただくことができ、ラジオと新聞で2つの企画が実現した。

① NHK ラジオ

ラジオ番組: 「花ラジしば」

毎週木曜金曜・11:00～12:00 放送(千葉県内向け・NHK FM)

アプリ「らじる☆らじる」で同日 18:00～全国向けに配信

新設コーナー:「あすしば」コーナー(金・11:05～11:20)において、SDGsに取り組む大学生を特集。

学生が大学や団体のSDGsへの取り組みや、家庭で出来る手軽なエコのポイントなどを紹介する内容。

本プロジェクトをシリーズで紹介してほしいということで依頼があった。

月日	内容	登場学生
10月8日	大学生が企業にSDGs 教室	熊倉優輝
11月5日	農業体験プログラム	石塚優洋
12月3日	大学生が竹林整備	須藤凜之助

② 東京新聞の連載記事

大学の公式組織として活動し、学内外から高い評価を得ている取り組みについて、東京新聞の紙面を使い月一回、学生の目線で紹介したいということで、東京新聞より企画の提案があった。

＜目的＞

千葉大学: 学生のメディアリテラシーの向上、紙面掲載による就職活動でのアピール材料。

京葉銀行: 京葉銀行の後押しによる千葉県内の企業コラボの紹介で、融資企業のパブリシティにもなり、知名度も高まる。

東京新聞: 読者に対し、身近な省エネ啓発、環境教育、リサイクル、サステナブルなどの活動を伝える。

＜掲載方法＞

- ・2022年2月より月1回(曜日は土日を想定)
- ・原稿 12字×60行程度、写真は1～2枚、執筆学生の顔写真と略歴
- ・オリジナルワッペン(右参照)を作成してコーナー化
- ・主に学生が記事を執筆して東京新聞に投稿、添削後、確認の上、紙面化される。
- ・紙面掲載日には、Web版にも掲載される。



＜掲載内容(予定)＞

時期	内容	執筆者
2月20日(済)	ecoプロジェクトの概要	岡山咲子 特任助教
3月20日	Chiba Winter Fes	学生
4月	考え方！私たちのSDGs	学生

5月	エコアクション21コンサルティング	学生
6月	Chiba's Bazaar	学生
7月	2022年度の本プロジェクトの企画会議	学生
8月	エコ発信局	学生
9月以降	2022年度の企画実施状況	学生

2022年2月20日掲載記事（この大きさの記事が毎月連載となる予定）

同日に掲載される Web 版

■ 1 首都圏ニーズ × 千葉
大学生が自身の想葉で企業とコラボ 千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト 岡山咲
・特任助教「環境学び行動できる人に」
2022年2月20日 07時42分

大学生が環境やSDGsに賛同するアイデアを企画に提案し、具体化する全国でも珍しい取り組み「千葉大学×京葉銀行×eコプロジェクト～7色の虹を千葉から未来へ～」が、県内で美を結びつける。本紙では今月から、プロジェクトに参加する学生が、当事者の面影を通してさまざまな活動を紹介する。初回は、プロジェクトを進める団体の創設に取り、今は学生を指導する元教員(以下は略称)が助教として、活動への思いをつづった。

「大学生と銀行のコラボ？」と、不思議に思う人もいるかもしれない。

このプロジェクトは、「萬人で世界銀行が運営していく」という構造化活動を行うことで、「千葉から将来の地球に貢献する」という思いのもの、五年前の二〇一七年にスタートした。

その主役は、同大学内で環境活動を十九年にわたり実施している「環境ISS
〇学生委員会」の学生たちだ。

企画は、まず学生がアイデアを提案し、同行との会話で企画を練る。同行は資金援助や取引先との調整役を担うという役割分担で進行する。

どの非対面の方法に切り替え、各企画を継続してきた。

A wooden ruler is positioned horizontally across the bottom of the image, with markings in centimeters from 0 to 100. The ruler is used for scale, indicating the width of the specimen.



(4) 外部向けの発表

会議・大会名	日程	発表タイトル・内容
ユニセフのつどい 2021 Web サイト 主催:千葉県ユニセフ協会	7月11日	「SDGs の達成に向けて私が取り組んでいること」 学生委員会の活動を紹介する際に、本プロジェクトについても紹介
第15回環境マネジメント全国学生大会 Web サイト	9月9日	「千葉大学環境ISO学生委員会」 コロナ禍で工夫した活動の事例として本プロジェクトの企画を紹介
第12回中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会 Web サイト 主催:中部大学	10月13日	「コロナ禍で工夫した産学連携活動 千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」 コロナ禍における本プロジェクトの取り組みを紹介
マイナビ学生の窓口プレゼンツ「SDGs 学生カンファレンス」 Web サイト 主催:マイナビ	11月24日	「SDGs 活動報告 ～コロナ禍だからこそその工夫と成長～」 地域貢献事例として本プロジェクトに触れ、環境ゼミナールと千産千消フェアを紹介。
第22回日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)シンポジウム Web サイト 主催:環境省	11月26日	「Activities of Chiba University Student Committee of EMS」 学生委員会の活動紹介のうち、企業との連携活動として本プロジェクトを紹介
サステイナブルキャンパス推進協議会 (CAS-Net JAPAN)の 2021 年次大会 Web サイト	12月4日	「学生・企業・市民でつくるサステイナビリティ」 受賞事例の紹介として、本プロジェクトのこれまでの実績とコロナ禍での取り組みを紹介
「私の大学紹介」プレゼンテーションコンテスト(ASEAN) Web サイト 主催:国立六大学、王立プノンペン大学	12月14日	「Chiba eco five」 学生委員会の活動紹介のうち、企業との連携活動として本プロジェクトを紹介
Asian Sustainable Campus Network(ASCN) 2021 年次大会	1月22日	「How to achieve SDGs at Chiba University (Japan)」 活動紹介の一環で、本プロジェクトについて触れ、SDGs 教室、竹林整備、コスメイベントを紹介

<p>2021年度持続可能な地域創造ネットワーク全国大会ユースセッション Webサイト 主催:持続可能な地域創造ネットワーク</p>	2月9日	<p>「学生・企業・市民でつくるサステイナビリティ」受賞事例の紹介として、本プロジェクトのこれまでの実績とコロナ禍での取り組みを紹介</p>
<p>対日理解促進交流プログラム「JENESYS2020」2021年度中国青年公益事業交流団オンライン交流 Webサイト 主催:外務省</p>	2月28日	<p>「私たちの環境活動～学生・地域・企業が連携する取り組み～」 学生委員会の活動の一環として、本プロジェクトを紹介</p>



中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会

SDGs学生カンファレンス



日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)シンポジウム

Asian Sustainable Campus Network 2021年次大会



持続可能な地域創造ネットワーク全国大会

中国青年公益事業交流団オンライン交流

(5) 表彰

<受賞概要>

受賞: サステイナブルキャンパス賞 2021 学生活動部門

受賞式: 2021年12月4日 @大阪大学

サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)年次大会 2021

受賞事例: 「学生・企業・市民で作るサステイナビリティ ~千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト~」

<審査講評>(審査委員長 朴 恵淑・三重大学 特命副学長)

学生活動が中心となって、地域の産官学民とのパートナーシップ、特に、京葉銀行との協働による eco プロジェクトは、持続可能な大学および地域創生の「千葉大モデル」として高く評価できる。コロナ禍においても、eco プロジェクト活動が委縮されることなく、発展的展開を図っていることは、学生たちのイニシアチブによる SDGs の成功事例として、日本のみならず、世界の成功事例として高く評価できる。

過去にも(サステイナブルキャンパス賞の)受賞歴があるが、2017年以降から活動の成果を丁寧に検証していく、国内外への学生派遣、学生委員会による企業の認証取得のコンサルティング、学生発案の環境貢献企画など、ユニークで活発に発展・展開している点も高評価を得た。

毎年構成員が入れ替わる学生団体は、継続的な活動の維持に苦労することが多いが、この取り組みが、年々進化を伴って成果を上げていることは、真の持続可能性という点からも、サステイナブルキャンパス賞にふさわしい取り組みである。



2021年度プロジェクトリーダー 須山優理乃が、受賞事例のプレゼンテーションを行った。



<広報>

2021年12月8日 PR TIMES にプレスリリースを掲載

千葉大学環境 ISO 学生委員会が「サステイナブルキャンパス賞 2021」を受賞

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000548.000015177.html>

(6) 雑誌等への寄稿

日本工業出版『建築設備と配管工事』2022年3月号

サステイナブルキャンパス賞に関する特集があり、受賞大学の事例として、8ページ寄稿した。

学生・企業・市民で作るサステイナビリティ

「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」の5年間の歩みと成果

執筆者:千葉大学/須山優理乃・岡山咲子



学生・企業・市民で作るサステイナビリティ(1)

《特集: サステイナブルキャンパス》

学生・企業・市民で作るサステイナビリティ

Sustainability created by students, companies, and citizens

「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」の5年間の歩みと成果

千葉大学 須山 優理乃・岡山 咲子

1.はじめに

千葉大学は環境負担の削減や環境教育・研究の推進といった社会的責任を果たすべく、2005年に環境マネジメントシステム（以下EMS）の国際規格であるISO14001の認証を取得した。特長的なことは、大学におけるEMSを「教育の一環」と捉えて、学生が主体となってEMSを運用するという方法を認証取得前から実践していることである。そのためには、2005年に「千葉大学環境ISO委員会（以下、学生委員会）」を発足させた。学生委員会を中心となって大学のEMSを運用している組織を、「千葉大学方式」と呼んでいる。

千葉大学方式には五つのポイントがある。一つ目は、学生委員会を学長直属の環境マネジメント組織の中に組み入れている点である。二つ目は、学生委員会が大学のEMSの中核業務に関わっている点である。例えば、大学の環境方針や環境目標・目標・実施計画の原案を作ったり、環境ISO基礎研修の講師を担当したり、内部監査員を担当したり、サステナビリティレポートを編集したりなど、専門性を活かして活動している。三つ目は、学生委員会が教職員が行っているようなことを学生たちが実践している。三つ目は、学生委員会の継続性の確保のために、単位化と資格認定制度を用いていることである。学生委員会に所属する学生は「環境マネジメントシステム実習」という授業科目を受講している。授業を通じてISO14001やEMSの知識、内部監査の知識と実践を学ぶほか、活動に必要なビジネススキルを学ぶ。さらには、省

エネ、環境教育、緑化などの目的別に多数の班が構成されており、座活動を行うことも授業の一環となっている。そして、3年後の12月まで活動した学生には「千葉大学環境エコルギマネジメント実習士」という学内資格が贈られ、履歴書や就職活動の際のエントリーシートに記載ができるという仕組みになっている。この単位化と資格認定制度の組みにより、毎年100名以上の新入生が入ってくる。四つ目のポイントは、学生委員会がNPO法人としても活動していることである。学内EMS運用業務で培ったノウハウを地域社会に還元するために、2008年にNPO法人格を取得した。理事長含め役員は全員が学生で構成されたNPO法人で、学内組織としての学生委員会と、NPO法人としての学生委員会と二つの顔を持って活動している。NPO法人としては主に地域社会における里山保全活動や出張エコ講師など、地域と連携した事業を行っている。そして、千葉大学方式の五つのポイントは、企業と連携したプロジェクトを開催していることである。学内でのEMS活動およびNPOとしての活動が定着してきた2015年以降から、いくつかの企と連携して活動を展開するようになった。その一つが、今回サステイナブルキャンパス賞受賞部門を受賞した、「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」である。本稿では本プロジェクトについて、詳しく説明していくこととする。

建築設備と配管工事 2022.3. 1

学生・企業・市民で作るサステイナビリティ(2)

2.プロジェクトの発足経緯



学生・企業・市民で作るサステイナビリティ(2)

2012年7月に千葉大学は京葉銀行と、千葉県経済と千葉大学の教育・研究の活性化を図り、活力ある経済社会の形成と学術・文化の振興を目的に、相互に協力可能な分野を共通して両事業を推進するため、包括的連携協力の協定を締結した。当時の京葉銀行法人事務部の吉澤秀郎部長は、2020年3月に実施したインタビューにおいて、学生委員会と協同プロジェクトを実施した経緯について、「千葉大学との協定を締結後、共同研究や寄付金施設等実践に向けた活動を行ったが、連携に向けた各種ハーベルガarden、産学連携の好事例がでできなかった。その後も千葉大学との情報交換を行って中で、環境ISO学生委員会の活動を知った」と述べている。

2016年3月に、千葉大学の学生委員会を通じて、京葉銀行と学生委員会の招致教員が会面し、情報共有したが、古澤部長は当時を振り返って、「学生主体でEMSを運用しており、環境委員会活動として学生・ネ・リサイクル運動や子供向けの教育活動、緑化活動等を積極的に実施していく、活動内容に興味を持ち京葉銀行との協同に良い範囲だと感じ、京葉銀行にて検討した結果、①地域活性化と環境ISO実践可能な取り組みがあり、時代に合っていること、②活動内容がわかりやすいこと、③学生の活動を活動面と資金面から直接手伝ええること、④京葉銀行のCSR活動につながること等、取り組むメリットを感じた」と述べた。京葉銀行と連携できることは、学生委員会としても、これまで実施してきた活動をさらに発展させるとないチャンスであった。

さらに、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みが必要とされていた中であったため、2017年に、まずは地域の環境負荷削減と環境意識向上に向かって貢献したいという想いから、「7色の虹を千葉から未来へ・千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト～」を発足させた。同年7月21日に行われたプロジェクトの発足会見には、学生13名が登壇し、本プロ

3.プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は二つある。一つ目、千葉県内の京葉銀行の行員や会員企業、地域住民や学生に対して、SDGsや環境意識の啓発活動等を実施することで、県内全体の環境負荷削減と環境意識向上およびSDGs達成に貢献することである。もう一つは、京葉銀行と学生が協同することで、学生の学びとなる貴重な機会とすることである。大学としては学生が企業の方と連携して活動することで、環境教育だけではなく、実業教育やキャリア教育にもなると考えている。プロジェクトは三つの柱に沿って動いている。「1. 京葉銀行による学生委員会の連携活動支援」「2. エコプロジェクトの取得コンサルティング」「3. 学生発案の7つの環境貢献のEMS」である。

まず、「1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援」では、千葉大学における学生主体のEMSや日々の環境活動について、国内外の

13（気候変動）、17（パートナーシップ）の三つの目標に寄り切った。2018年度まででは、学生委員会が主催する「Chiba Winter Fair」で、京葉銀行の取引先の農業法人や食品加工業者などが地元産品の販売を行うことで、来場者に人差し手贈りの酒を販売した。2019年度はコロナ禍で同Fesが中止となってしまった。2020年度もイベント開催ができないため、学生委員会が千葉県内の農家や事業者を取材したリーフレットを作成して、京葉銀行の全110店舗で県内向けに販売した。2021年度は、農家の手不足による解消にこれまでの若者たちへの農業への興味回復を目的として、京葉銀行の行員や会員企業の学生を1～2週間派遣して、芋掘り作業、つるを切る作業、芋の選別作業、第詰め作業などを行った。



写真1 プロジェクト発足会見の様子

4.プロジェクトで実施する中身について説明した。

銀行と学生が連携するプロジェクトが珍しかったのか、11社のメディアが取材に訪れた。

5.プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は二つある。一つ目、千葉県内の京葉銀行の行員や会員企業、地域住民や学生に対して、SDGsや環境意識の啓発活動等を実施することで、県内全体の環境負荷削減と環境意識向上およびSDGs達成に貢献することである。もう一つは、京葉銀行と学生が協同することで、学生の学びとなる貴重な機会とすることである。大学としては学生が企業の方と連携して活動することで、環境教育だけではなく、実業教育やキャリア教育にもなると考えている。プロジェクトは三つの柱に沿って動いている。「1. 京葉銀行による学生委員会の連携活動支援」「2. エコプロジェクトの取得コンサルティング」「3. 学生発案の7つの環境貢献のEMS」である。

まず、「1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援」では、千葉大学における学生主体の

EMSを解消するためにアマモの苗を移植する作業を行なった。2021年度は、京葉銀行主催の「アマモバーン再生プロジェクト」において、竹林について学び、竹林整備を行なった。竹林は、以前は竹を採るために伐採されていた竹林が、輸入品の普及により国内の竹林が放置されて無秩序に生えてしまい、植生の変化により土地崩れなどの自然災害を引き起こしてしまうことを指す。この企画では、竹林を整備することで自然の生態系を戻したり、除去した竹を利用して竹炭を作ったりした。



写真2 Chiba Winter Fairの様子

「④Chibaクリーンアクション」では、学生委員会や京葉銀行の行員が海や山林で環境ボランティア活動を行う企画である。この企画では、SDGsの14（海）、15（陸）、17（パートナーシップ）の三つの目標に寄り切った。2019年度まででは、NPO法人として、海辺の海岸清掃を行なった。学生委員会から京葉銀行行員が地域の方と一緒に、沖ノ島周辺の海岸清掃を行なった。また、海において競艇を放浪したり木の浮化を行なったりする「アマモ」という植物が、近年台風や魚の食害の影響を受けて減少している間

5. まとめと来年の展望

(1) 総括

＜今年度の企画実施結果＞

企画 ◆: 対面 ●: オンライン/非対面	評価	成果
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援 ●◆ 	学生が発表する機会が増えた。 大阪大学に学生を現地派遣できた。 Chiba Winter Fes を開催できた。	◎
2. 「エコアクション 21」取得コンサルティング ● 	大幹様へのコンサルティングが順調に進んでいる。新たに1社開始する予定。	◎
3. 学生発案の7つの環境貢献企画		
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール ●環境ゼミナール ●企業に対する環境・SDGs 教室	両方オンラインで開催できた。 SDGs 教室は新企画であった。 参加者の満足度が高かった。 企業の参加人数を増やす余地がある。	○
(2) こどもエコまつり ◆家族でエコにちようせん!～クリーン＆カラー～	新企画に挑戦し、対面で実施できた。 メディアにも取り上げてもらい、広く啓発につながった。	◎
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～ ●リーフレットの配布 ◆農業体験プログラム ◆Chiba Winter Fes 2022 ブース出店	リーフレットが好評であった。 新企画の農業体験プログラムを実施することができた。 参加人数や集客面で改善の余地がある。	○
(4) Chiba クリーンアクション ◆竹林整備体験	新企画として実施できた。 多くのメディアに取り上げられた。	◎
(5) 映画祭 Chiba ●考え方！私たちの SDGs	映画祭中止に伴い、オンラインに切り替えて新企画を実施することができた。	○
(6) エコ発信局 ◆香取市佐原周辺地域におけるモニターツアー ●SDGs をわかりやすく発信	新企画を実施できた。 多くの1年生を巻き込んで実施できた。 様々な SDGs の啓発に寄与できた。	◎

●エコメニューの啓発			
(7) 京葉銀行エコチャレンジ ◆マイストロ一販売イベント ◆Chiba's Bazaar～古着でつなげるエコの糸～		前年度の企画を完了させることができた。 Chiba's Bazaar は準備を進めており、来年度実施予定である。	○

＜過年度との比較＞

年度	学生発表の機会	7つの企画で実施した企画数	左のうち新企画の数	プレスリリース	メディア露出(新聞,テレビ,ラジオ)	表彰
2017	5回 23名	8企画	8企画	10本	19(16, 5, 0)	4件
2018	5回 16名	10企画	3企画	11本	13(12, 2, 0)	1件
2019	7回 42名	8企画	5企画	12本	8(7, 1, 0)	2件
2020	5回 13名	8企画	6企画	5本	3(3, 0, 0)	0件
2021	11回 60名	13企画	7企画	14本	24(13, 7, 4)	1件

① 12個のSDGs目標に寄与でき、7つの全ての枠組みで企画を実施することができた

今年度はエコアクション21コンサルティングも順調に進み、「学生発案の7つの環境貢献企画」の7つの貢献企画の枠組みにおいても全て企画を実施することができた。2019・2020年度は、コロナ禍で実施ができないかった枠があったが、今年度はオンラインの活用や感染防止対策に慣れてきたこともあり、昨年度ほどの混乱はなく、企画段階からコロナ禍を考慮しながら進め、各企画を無事に実施することができた。

② 企画数が過去最多。新しい企画にも多数挑戦できた

7つの枠組みの中で実施する企画の数が、過去最多の13企画であった。そのうち7企画が過去最多の新企画であった。学生のアイデアを形にすることや、コロナ禍に対応して従来の企画を発展させて実施することができたことと、京葉銀行からの持ち込み企画があったことが要因である。来年度も、引き続き実施する企画はプラスアップさせ、多くの新しい企画を取り入れて実施していきたい。

③ プレスリリースの本数とメディア露出数が過去最多

多くの企画を実施できたことから、過去最多の数のプレスリリースを配信することができた。社会的にメディアが昨年度より圧倒的にSDGsに関するネタを集めようになってきていることや、本プロジェクトがSDGs

達成に向けた学生と銀行の連携活動であるという認知度が上がってきたことが相まって、メディア取材が増え、メディアに取り上げられる数も過去最多となった。また、メディアの特集企画に本プロジェクトの紹介を依頼されることは今年度初めてであった。特に、東京新聞での連載企画はかなりPR効果が高いと思われる。来年度も引き続き広報に力を入れていく。

④ 学生の発表の機会が過去最多

認知度の向上とメディア露出の増加により、学生委員会に「活動事例を発表してほしい」という依頼が以前より多く入るようになり、学生の発表機会が増えるという好循環も生まれている。今年度はオンラインでの開催が増えたこともあり、発表の場も経験した学生数も過去最多となった。ただ、対面での発表や交流の機会が1回しかなかったので、来年度以降は徐々に増えていくことを願っている。

⑤ サステイナブルキャンパス賞を受賞することができた

今年度は、過去の実績も引っ提げて「サステイナブルキャンパス賞」に4年ぶりにエントリーをして、見事受賞することができた。5年にわたって本プロジェクトを継続・発展させていることが評価された。来年度も機会を見つけて表彰制度にエントリーしてみたい。

(2) プロジェクト推進リーダーより

まずは、本プロジェクトの発足から現在に至るまで、多大なるご尽力とご支援を賜りまして、深く御礼申し上げます。京葉銀行様を含む企業の方や市民の方のお力添えのおかげで、学生だけでは成し遂げることのできない企画を多数実現することができました。

2017年にプロジェクトが発足してから2019年度までは対面活動が自由にでき、学生たちの自由な発想で企画が実践されてきました。しかしながら今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で活動内容が制限されてしまいました。そのような中でもこのプロジェクトの歩みを止めるのではなく、オンラインでできることはないか、極力対面を減らした形に変更することはできないか、とアイデアを出し合い、プロジェクトを継続してきました。

本プロジェクトは、目に見える利益のために実施するのではなく、自発的に「SDGs、環境問題の現状を改善したい」という1人1人の思いから実施しています。学生団体と銀行が協同でこうした活動を行っていることは珍しく、活動をするたびに新聞やテレビが取材に来てくださったり、ラジオ番組で取り上げてくださったりと、メディアに出る機会も増えてきました。私たち学生委員会は、より多くの人に今の地球が置かれている状況を把握してもらい、それに対して行動してもらうことを目標としています。またそれに伴い、学生・企業・市民の三者でサステイナブルな社会を構築することも目標であります。日常の小さな行動の積み重ねで環境問題は左右されるので、状況を把握し行動を改めてもらえるよう、今度も精進していきます。

最後に、もう一度皆様のご尽力に御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いし、結びといたします。誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト 推進リーダー

園芸学部2年 須山優理乃